

〈研究ノート〉

# コミュニケーションを生かした音楽科指導の在り方 ーオペレッタの創作活動を通してー

How to teach the music department by making use of communication  
ー Through the creation activities of the operetta ー

関西福祉大学 木原 加代子\*<sup>1</sup>

Key words : 音楽教育, コミュニケーション, オペレッタ, 総合的な音楽学習, 創作

## 1 はじめに

メディアが発展した現代社会では、どこにいても音楽が流れている。胎児が母体にいる時から胎教音楽に始まり、子守歌のBGMに触れて成長している。現在は、誰でもユーチューブ等を通して多様な音楽に触れることができるため、家庭でも家族が好む音楽に触れて、楽しみを共有している。

そこで、学校の音楽教育で学んだポピュラーな曲を用いてオペレッタにアレンジし、総合的な音楽活動に取り組む。グループ単位の活動で、歌唱の練習とセリフの役割分担を決めさせ、コミュニケーション力を働かせて、楽しみながら表現力を高めることをねらいとする。

## 2 学校教育法から

### (1) 生活を明るく豊かにする音楽

義務教育として行われる普通教育は、教育基本法（略）大五条第二講に規定する目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。（略）

九 生活を明るく豊かにする音楽、美術、文芸その他の芸術について基礎的な理解と技能を養うこと。（学校教育法第二十一条）

音楽に焦点を絞って述べると、芸術の一つである「音楽」が必要であること、その「音楽」は、「生活を明るく豊かにする」ことであること、義務教育では、「音楽についての基礎的な理解と技能を養うこと」が達成されるようにすることである。

### 3 音楽の特質、音楽活動の特質から

音楽は、言語と並んで人間固有の文化の一つである。人々の生活や社会と結びついて音楽が生まれ出され、伝承されてきた。音楽は、様々な集団がつくり上げてきた文化の所産である。集団がもっている音楽を学ぶということは、その集団の人々の考え方を学ぶことにつながり、広義には、人間を学ぶことになる。音楽を表現する上で大切なのは、仲間との存在である。学校の音楽の授業では、個人的に音楽を楽しむこととは違い、仲間と一緒に歌ったり、演奏したり、つくったり、味わって聴いたりすることがなされる。互いの音楽表現や曲の良さなどについての考えを交流するためにはコミュニケーション

\*<sup>1</sup> Kayoko KIHARA  
Kansai University of Social Welfare

力が不可欠である。共に学んだ既習曲を通して、音楽表現に対する思いや意図を共有していくことで豊かな表現力へと高まっていく。これらの一連の活動を支えるために、コミュニケーション力を働かせたオペレッタの活動をする。

#### 4 音楽科におけるコミュニケーション教育の可能性

大久保（2014）は、音楽科におけるコミュニケーションについて次のように述べている。

「コミュニケーションという観点からして音楽科が他の教科と大きく異なる点があるとすれば、まず、その活動中に自ずとコミュニケーションの場とならずにはおかない場面が多く含まれている、ということだろう。－略－音楽科と体育科では、子ども同士が行動を共にし、しかも、その際に協力関係なしには成り立たないような活動の場面が少なくない。音楽科の場合、共に歌い、奏するという活動がかなりの部分を占めており、ある音楽を聴く場合でも、その理解や感想について意見交換する場を設けることができる。すなわち、この教科では教師と子どもの間はもちろん、子ども同士でもさまざまなコミュニケーションが授業中に生じることになる。－略－学習活動の質を高めることが、そのままコミュニケーションの質を高めることに繋がりをうだろう。そして、まさにここにこそ、コミュニケーション教育に音楽科が大いに貢献しうる理由の一つがある。」

#### 5 オペレッタの取り組み

音楽科教育の中で培った表現の技能を総合的に再編する。児童が一年間学んできた、既習曲を基に、オペレッタを創る。

初めての音楽活動であり、参考になるビデオを見せて、オペレッタのイメージをつかませる。

ワークシートを準備して、オペレッタのシナリオを理解する活動をしていく。

一連の活動は、児童主体で各々の思いや考えを出して、コミュニケーションを図りながら表現力を豊かにするための活動をさせる。

セリフや曲想表現を高める過程では、グループ内での会話を大切に、コミュニケーションを図りながら、オペレッタの表現力を高める。また、セリフについては、活動していく中で、児童たちの意見を取り入れて、創作活動に繋げる。

オペレッタの内容を聴き手に伝えるために、一定の練習時間を確保する。

#### 6 授業の提案

- |          |   |
|----------|---|
| (1) 対象学年 | 1年  |
| (2) 教材   | オペレッタ「おさんぼにレッツゴー！」<br>「さんぼ」, 「かたつむり」,<br>「げんこつやまのたぬきさん」, 「しろくまのジェンカ」, 「きらきらぼし」  |
| (3) 実施時間 | 3時間   |
| (4) ねらい  | 一年間の音楽活動のまとめとして、今まで学習してきた歌唱教材を基にして、オペレッタを創作し、発表をすることができる。   |
| (5) 楽曲分析 | 「さんぼ」は、音楽に合わせて、足踏みや行進をするのに適した教材である。<br>「かたつむり」は、拍にのって、歌詞に合わせた身振りをつけて歌うのに適した教材である。<br>「げんこつやまのたぬきさん」は、拍の流れののって、身振りをつけたり、 |

楽器を使ったりして歌うのに適した教材である。「しろくまのジェンカ」は、音楽に合わせて、歌ったり、身体を動かしたりして、仲間と協働で楽しむことができる教材である。「きらきらぼし」は、夜空の星をイメージしながら感情移入をして歌うのに適した教材である。

- (6) 指導の展開 第1時 オリエンテーション  
 第2時 グループ学習  
 第3時 発表会

表1は、全3時間の学習活動の展開である。

表1 学習活動

|  | 学習活動   | アドバイスと留意点  |
|--|--|--|
| オリエンテーション<br>1時間<br>・<br>グループ学習<br>1時間 | <p>オペレッタにふれてみよう。</p> <p>○オペレッタのビデオを見る。<br/>○感想を発表する。<br/>○ワークシートに曲名を書く。</p> <p>○好きな歌を選び、選曲別のグループを作る。</p> <p>○歌のグループに分かれ、セリフを読む。</p> <p>.....</p> | <p>・オペレッタについて、説明をする。<br/>・ビデオを見せて、セリフと歌で組み合わせ、表現していることに気づかせる。<br/>・ワークシートに演奏する曲名を記入させる。<br/>・5曲の中から好みの歌を選ばせ、グループに分ける。<br/>・多少の人数の偏りは、調整しない。<br/>・グループに分かれて、セリフを読む練習をして、シナリオの流れを把握させる。</p> <p>.....</p> |
|  | <p>オペレッタに取り組もう。</p> <p>・リーダーを決める。<br/>・セリフの役を決める。</p>  | <p>・教室内で5グループに分かれ、活動する場所を決める。<br/>・主・副のリーダーを決めさせる。<br/>・セリフの分担は、グループ内で決めさせる。</p>   |

|               |   |  |
|---------------|---|--|
| グループ学習<br>1時間 | <p>・セリフに身振りをつけて練習する。<br/>・全体を通して練習する。</p> <p>.....</p>  | <p>・発音や声の大きさも工夫させる。<br/>・グループで選曲した曲を中心に歌の練習をさせる。<br/>・演奏する曲順に選曲したグループが先頭になり、リーダーシップをとる。<br/>・次時の課題を明らかにさせる。</p> <p>.....</p>                         |
| 発表会<br>1時間    | <p>発表会をしよう。</p> <p>○前時の復習をする。<br/>○発表をする。<br/>・選曲したグループがリードして、全員でオペレッタを表情豊かに発表する。<br/>○感想を発表する。<br/>・肯定的な評価をする。</p> | <p>・前時の課題を中心に練習をする。<br/>・自信をもって発表できるように励ます。<br/>・空き時間の教職員を招き、参観してもらう。<br/>・学年末の集大成として、堂々と発表させる。<br/>・参観者にも感想を述べてもらう。<br/>・コミュニケーションを図りながら、発表させる。</p> |

## 7 学習活動の展開におけるシナリオ

表2は、オペレッタ「おさんぽにレッツゴー！」のシナリオである。5曲の既習曲に基づいて、一年間の音楽活動を振り返る内容でまとめている。

指導に当たっては、児童が、セリフの役割を決めたり、表現力を高めるために必要なコミュニケーション力を生かしたりして、主体的な表現活動をさせる。

表2 「おさんぽにレッツゴー」のシナリオ

| 曲名  | 「おさんぽにレッツゴー！」   |
|-----|---|
| さんぽ | <p>「」は一人、太字は全員、○は歌、●は活動</p> <p>「今日は、お天気がよいので、みんなでさんぽに行こうよ。」<br/>                 「うん。おもしろそうだね。」<br/>                 「では、みんなでレッツゴー！」<br/>                 ○「さんぽ」の歌を歌いながら出発する。<br/>                 ●音楽に合わせて、足ぶみをしたり、行進したりしながら、歌う。<br/>                 「さんぽは、楽しいね。」</p> |

|              |  |
|--------------|--|
| さんぼ          | <p>「みんな、『さんぼ』の歌のどこがすき？」<br/>         「『さかみち、トンネル』のところすき。」<br/>         「『いっぽんぼし』もおもしろかったよ。」<br/>         「『でこぼこじやみち』もおもしろい。」<br/>         「『くものすくぐって』のところもおもしろいけど、くものすにかかるとはいやだ。」<br/>         「楽しいからもっと行ってみようよ。」<br/>         「そうしよう！」<br/>         ……………</p>   |
| かたつむり        | <p>「おや？きれいな花がさいてるよ。」<br/>         「ほんとうだ。きれいだね。」<br/>         「見て見て、かたつむりがとまっているよ。」<br/>         「さわってみたいな。」<br/>         「だめだよ。そっとしておこうよ。」<br/>         「見るだけね。」<br/>         「うごかないよ。」<br/>         「だったら、はっぱをうごかしてみれば？」<br/>         「そうだね。では、〇〇くん、やってみて。」<br/>         「あっ！うごきだしたよ。」<br/>         「おもしろいね。みんなで、かたつむりの歌を歌おうよ。」<br/>         ○「かたつむり」を歌う。<br/>         ●思い思いに身振りをつけながらつづけながら歌う。<br/>         ●ペアでも歌う。<br/>         「楽しかったね。」<br/>         「もっととおくまで行こうよ。」<br/>         「うん。レッツゴー！」<br/>         ……………</p>  |
| げんこつやまのたぬきさん | <p>「ずいぶん高いところまできたね。」<br/>         「とおいところまで、よく見えるね。」<br/>         「おや？なにか音がしたよ。」<br/>         「どこどこ？」<br/>         「あっ！たぬきさんだ。」<br/>         「おやこのたぬきさんだ。」<br/>         「いっしょにあそぼうよ。」<br/>         「いいね！」<br/>         「たぬきさん、こんにちは。」<br/>         「いっしょにあそぼうよ。」<br/>         ○「げんこつやまのたぬきさん」を歌う。<br/>         ●タンプリンやカスタネットをつかって、拍を打つ。<br/>         ●何度か歌ってじゃんけんで勝った人から、打楽器にチャレンジする。<br/>         「たぬきさんとともだちになれたよかったね。」<br/>         「いっしょに歌うのも楽しかったよ。」<br/>         「たぬきさんの赤ちゃんがねたので、さよならしようよ。」<br/>         「そうだね。たぬきさんおやすみ。」<br/>         「とっても楽しい歌をおしえてくれて、ありがとう。」<br/>         「ありがとう。」<br/>         「さようなら。」<br/>         「さようなら。」<br/>         「ねえ、みんな。」<br/>         「向こうの山までいってみたいな。」<br/>         「ちょっととおいけど、がんばって行こうか。」<br/>         「がんばって行こう！」<br/>         ……………</p> |

|           |  |
|-----------|--|
| しろくまのジェンカ | <p>「つかれたね。」<br/>         「ちょっと休もうよ。」<br/>         「うん。そうしよう。」<br/>         「ねえ。何か楽しそうな音楽が聞こえてこない？」<br/>         「ほんとだ。みんなで何かおどってるよ。」<br/>         「行ってみようか。」<br/>         「行こう。」<br/>         「行こう。レッツゴー！」<br/>         「あっ！しろくまさんだ。」<br/>         「ぼくたちもななまにいれてよ。」<br/>         「いっしょにおどろう。」<br/>         ○しろくまのジェンカを歌う。<br/>         ●最初はみんなで歌う。<br/>         ●歌に合わせて、仲間と協働してジェンカのステップを楽しむ。<br/>         「長いれつになったね。」<br/>         「しろくまくん。いっしょにあそんでくれてありがとう。」<br/>         「歌に合わせておどるのがとっても楽しかったよ。」<br/>         「またいっしょにあそぼうね。」<br/>         「さようなら。」<br/>         「さようなら。」<br/>         ……………</p> |
| きらきらぼし    | <p>「ずいぶんとおくに来たね。」<br/>         「それに、なんだか少しくらくなってきた。」<br/>         「あっ！いちばん星がみえたよ。」<br/>         「どこに？」<br/>         「あそこ。」<br/>         「ほんとだ。」<br/>         「よくひかっているね。」<br/>         「みんなで、きらきらぼしの歌を歌いながらかえろうよ。」<br/>         「それがいい。」<br/>         「それがいい。」<br/>         ○「きらきらぼし」を歌う。<br/>         ●思い思いのほしをイメージしながら歌う。<br/>         ●部分的に身振りをつけながら歌う。<br/>         「かえりもみんなでさんぼの歌を歌いながらかえろうよ。」<br/>         「それがいいね。」<br/>         「それがいい、それがいい」<br/>         ……………</p>   |
| さんぼ       | <p>○「さんぼ」を歌う。<br/>         「歌いながらかえったら、あっという間についたね。」<br/>         「ほんとだ。」<br/>         「行くのはじかんがかかったけど、かえりははやかったね。」<br/>         「きょうは楽しかったね。」<br/>         「そうだね。」<br/>         「二年生になったら、またみんなでさんぼに行こうね。」<br/>         「やくそくよ。」<br/>         「さようなら。」<br/>         「さようなら。」</p>  |

## 8 まとめ

音楽科授業のまとめとして、既習曲を使ってオペレッタを創作した学習の一端である。既に学習している各曲にセリフを加えて総合的な表現活動に仕組む。セリフを交えての音楽活動は、コミュニケーションなくしては、豊かな表現力へと高めることができない。コミュニケーションを生かしたオペレッタの音楽活動は、表現力を高め、生活を明るく豊かにする音楽教育の一端に触れることができると考える。

## 引用・参考文献

- ・文部科学省（2018）「小学校学習指導要領解説 総則編」P.164
- ・津田正之（2019）「教員養成課程小学校音楽科教育法」P.6
- ・大久保賢（2014）「コミュニケーション能力育成の場としての音楽教育（1）名古屋芸術大学研究紀要第35巻」P.53

（令和 2（2020）年 2 月 7 日受理）